

廿七年六月朝鮮事件

内閣ヨリノ訓令（陸軍大臣へ）

一 出兵ノ目的ハ公使館領事館及帝國臣民
ヲ保護スルニ在ルコト、著眼スル
ニ公使館領事館及帝國臣民保護ノ
手續ハ必要急ノ場合ニ於テ臨機處分ノ
外全權ニ使ト依議スルニ若シ事見合
ハサレコトアルモ兵接係ル場合ノ外使ノ
議ニ從フニ

ニ京城ノ外各港ノ居留帝國臣民ヲ保護

0029

八に為メ一に之使ト懷漢ヲ經ル便宜
 ナルハ一に之使ト懷漢ヲ經ル便宜
 四に傳使領事及帝國臣民ヲ保
 護スル為メ正當防衛ヲ要スル場合
 におハ朝鮮國ノ内亂ニ干渉スルカ
 否ハ注意シヨ也、進入スルカ
 否ハ及朝鮮人民ヲ害スル場合
 におキテ保護ヲ與フヘシ
 六に對抗者ノ外ハ殺戮ヲ行フカ
 七に若シ朝鮮政府危急ニ至リ彼
 等ヲ援テ救護ヲ求ムコトハ場合

0030

、らうい更、ど使ヨリ政府ノ旨ヲ傳フキ
、依リ以持鎖壁ノ安ふ及フコトモ
アんでし

ハ若し朝鮮國國王又、其貴顯又ハ
、其駐在ノ官事、こしテ目前、危急ノ場
、合、迫ルヲ見、受ルトキ、常ニ保護ノ
安ふヲ望ムルコト

九若し諸王ヨリ此ノ旨ヲアケ、し、軍隊
、ヲ出サリ、敵禮ヲ守リ、衝突ヲ避ケ、細
心ヲ用テ、隣ノ國ヲ欺ラズルコトニ注意ス
ヘシ

在京城帝國全權公使及其他ノ交渉

ニ関スル訓令

一今般ノ出兵ハ帝國ノ保護ヲ護衛
ニ力ヲ居任帝國臣民保護ノ目的
他意アリトナシ而シテ出兵ノ事ハ日韓
間ノ關係ハ明治十五年濟南浦條約
第五款及明治十年七月代理公使
ノ知照ノ基ニ因シ又日清ノ關係ハ明治
十年天津條約第五款ニ由テ既ニ其
手續ヲ經タリテナリ依テ清廷及列國

官ありきと應接ノ時ハハ意ヲ代ハセリ

ニ法韓乃其代ハハ文成ヲ受ク
漢人トヤツカメ種ハハ
本々韓民ノ情ハハ
アル

と帝王軍隊ノ旨全ハハ
朝鮮政ヲシテ其政ヲ及修理ヲ
為サレハルヲ以テ誤政ヲシテ
政ヲ為シテ其政ヲ及修理ヲ
便置ナレハルヲ以テ誤政ヲシテ

子カノ者ナリ
四家等初鎮定ノ為メ韓鮮政府ヨリ
帝王軍隊ノ助力ヲ清ホスルトキハ
少少ハ似漢ノ上之ノ行ノ事アリシ
然レトモ作戦ノ了リハ固マキ官ノ
為行ハルシ
女前項ノ如ク、在テ若シ清王軍隊ト
共、戦地ニ在リ或ハ一日ニ地方ヲ
在スルトキ、少少似漢ノ上之ノ行ノ事
ハ我ノ衝突ヲ来カハル事ニ注意ス
ルシ

之新民政ノ京師ニ関入シ朝鮮政府
ハ該地ニ立ル者ニ付保護ヲ領ス
彼等外ノ人民ヲ保護スルノ力ナリ
其臣使臣若クハ領事ヲ常ニ使
ルルハ保護ヲ請フニトキハ使
リ保護ノ上可及ナク保護ヲ與フ
べし

七朝鮮海軍帝國船隊司令官トハ
事ハお呼應シテ百般ノ情報ヲ交
換スル

明治二十七年六月

張永強子長子島義昌殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

